

超希少 国産生糸の中核



製糸作業に興味津々で見学する英米の染織家ら＝群馬県安中市松井田町新堀甲

碓氷製糸(群馬県安中市)



かつて叫んだ。「モスラ、がんばれ」。双子の幼虫が糸を噴射、ゴジラを撃退した。

小学校低学年の時、みんなて怪獣が主役の銀幕に向かっていた。養蚕と絹織物産業の主役だ。

モスラのモデルとなったガ。幼虫が吐いてできた繭をとくばぐすと、生糸(絹)になる。養蚕と絹織物産業の主役だ。

西陣織などの着物に

ある碓氷製糸が誇るのは希少価値だ。日本で使用される生糸の国産はわずかに2%。そのうちの約7割を生産し、絹織物の最高峰、西陣織(京都)などの豪華な着物に変身する。

戦前、日本は世界一の繭生産を誇った。1930年の繭収穫量は約40万ト、生産農家は約220万戸にものぼった。しかし、化学繊維の普及と安価な中国、ブラジル産に押されて衰退、業界は荒波に襲われた。

59年、地元の製糸会社が経営難で廃業。販売先を失う地元の養蚕農家は困った。約1100人が出資し

て、前身の碓氷製糸農協を設立し、廃業した会社の建物、従業員を引き継いだ。だが、その後も輸入物の席巻が続く。昨年度の輸入量は国産の約50倍だ。「生活が洋式化し、和服を着なくなつて需要が減ったことに加え、人件費が安い中国産の流入が追い打ちをかけた」と高木賢社長(76)。

同社の昨年度の生産量はピーク時の1割弱の約14ト、総売上高は約2億円。組合員も8人にまで減少し、2年前に株式会社に改組した。

納入される繭は県内110戸、県外52戸の農家の汗の結晶だ。繭を乾燥機にか

信頼されるものづくりが大事



高木賢・社長訓

食糧庁長官で退任。大日本蚕糸会会頭の時から、故郷の宝である碓氷製糸農協の将来を案じ、株式会社化を主導。社長になった。

「希少性に甘えてはいけません。信頼されるものづくりが大事だ。太い細いの糸のムラや節をなくするのが最重要だ」環境は厳しい。200万戸以上あった原料供給元の農家は今や約300戸で、高齢化

弁護士、高崎経済大理事長を兼ねる高木社長は多忙だ。実家は高崎市の米屋。橋の下で暮らす人を見て「貧困の多い世を」と農林水産省に入

た。繭系課長、官房長を経て

「新小石丸」の普及に期待を膨らませる。

飲むなら茨城の地焼酎

720ml

漫遊記

茨城生まれの本格焼酎

漫遊記

全国新酒鑑評会 受賞歴

副将軍 明利酒類

茨城県水戸市元吉田町338

TEL 029-247-6111

(野口拓朗)